真岡市行政評価システム

評価対象年度　令和7　年度　　**事務事業評価マネージメントシート**　　作成日　令和8年3月12日

事務事業名	★教育環境整備事業		担当課・係	教育委員会　学校管理課　学校施設係
政策名　No	1	「人づくり」～豊かなこころアップ！～	関連するSDGs･DX	
施策名　No	1	確かな学力の育成		

成果指標	名　称	初年度からの実績値の比較						目標値
		単　位	R7	R8	R9	R10	R11	R11
	小学校修繕件数	件	176					
	中学校修繕件数	件	124					

事業内容

児童生徒が安全で安心して学べるよう、学校施設長寿命化計画に基づいた施設の大規模改修・修繕や設備の新設・更新により教育環境の整備・充実を図る。

前年度の課題（Check）

学校施設は、老朽化が進行していることに加え、空調設備など維持管理が必要な設備も増えており、修繕件数についても増加傾向にあるが、施設の修繕に係る予算が限られているため、不具合が生じた際に必要最低限の修繕になっている。

修繕にかかる件数・費用は、ともに増加傾向にあり、年度ごとの事業費もばらつきが見られる。

7年度振り返り

【1】実績（Do）７年度に実施した事業

○関係法令等に基づく点検を実施するとともに、常時適法な状態に維持することが求められており、適切な維持管理に努めている。令和７年度は、長寿命化計画に基づいた物部小学校校舎外壁改修と大内中学校機械設備更新を実施したことに加え、３００件（前年度比１３件の増）の修繕を実施し、良好な学習環境の整備に努めた。

○体育館空調設備整備事業に着手し、真岡小学校及び市内中学校９校において実施設計業務委託を実施した。

【2】結果と課題（Check）

学校施設は、施設の老朽化に伴い修繕や改修を必要とする箇所が増加傾向にあり、その予算も不足している。また、空調設備など維持管理を必要とする設備も年々増えており、整備需要・整備費用ともに増大している。

そのため、学校施設の維持管理については不具合があった際に保全を行う「事後保全型」になっており、修繕箇所数や修繕費用がさらに増加することが懸念されるとともに、年度ごとの事業費が一定化しない状況にある。

そこで、施設整備に係るコストを総合的に抑制していくため、点検による劣化、損傷等の状況を的確に把握したうえで、優先順位を考慮し、計画的に改修・修繕を実施して不具合を未然に防ぐ「予防保全型」になるよう、事業のやり方を改善・工夫する必要があるとともに予算を増額する必要もある。

今後の方向性と具体策

□ 廃止　□ 休止　□ 目的絞り込み　□ 目的拡充　□ 事業統廃合　■ 事業のやり方改善　□ 予算削減　■ 予算増大　□ 現状維持(従来通りで特に改革改善しない)

【3】具体的な改善策(Action➡Plan)　課題に記載された内容の解決に向けた取り組みについて、**いつ、何を、どのように実施し解決に導くのかを具体的に**記載してください。

(1) ただちに取り組むべきこと

数年後に複式学級になる学校があるなど、学校数は児童生徒数に対し過大傾向にある。そこで、子どもたちのより良い教育環境の整備と教育の質の充実を図るため、学校規模と学校配置の適正化について検討するとともに、学校適正配置計画に基づき、学校を統廃合し施設数を減らすことで、将来に渡り使用する施設に維持管理に係る予算を選択・集中する。

具体的には、令和８年度に学校適正規模等検討委員会を実施し、学校適正配置計画を策定。この学校適正配置計画に基づき、小中学校の統廃合を進める。

(2) 長期的な計画で検討すること

学校施設の維持管理に係るコストを総合的に抑制していくため、点検により劣化や損傷等の老朽化の状況を的確に把握したうえで、優先順位を考慮し、計画的かつ効果的・効率的に施設の長寿命化や安全性の向上を図りながら不具合を未然に防ぐ「予防保全型」に移行できるよう事業のやり方を変える。